

佳作

自然から想う

福岡県 筑陽学園中学校一年 中野 遥恋

私はこの夏休み、浮羽にある調音の滝で、滝の前のベンチに座り、三十分、一時間とゆっくり自然を感じてみた。最初は、ただ涼しい。そんなありきたりな事しか思わなかったが、時間の経過と共に五感が研ぎ澄まされていく。そんな感覚を覚えた。

滝、岩、木々を見つめるうちに、その一つ一つに色の濃淡、光が当たる場所、キラキラ光る水面、影があることに気付く。ダイナミックに流れ落ちる滝、光が当たり美しく輝く黄緑の木々や透き通った水面がある。けれど、その一方で、すぐそばには、細く、でも確実に途絶えることのない小さな滝や暗黒色の土砂、日の当たらない木々がある。美しく華やかな彩りがある一方で、すぐ隣には控えめな世界が存在している。それらは目立つ事はないが、なければ美しい彩りが映えない必要な存在だ。

このように自然を感じていると、ふと人間の世界

やっとスタート地点に立つ事ができた。日常は忙しく、なかなか立ち止まったり見つめたり出来なかったけれど、夏休みという自由な時間を使って、自然の中で五感を研ぎ澄ませてみると、じっくりと自分の世界に入り込む事が出来た。

さあ、自分探しの旅の始まりだ。

にも通じているような気がしてくる。私はこの目の前にある自然の中で、どれになりたいのか、そんな事を考えつく。自ら光輝くスターになりたいのか、目立たなくても何かの支えになるような場所を選びたいのか。そのどれが自分にとっての幸せを感じられるものなのだろうか。それを見つけてみたい。幸せの正解は、人それぞれ違うだろう。目立つ事が嬉しい人、ストレスに感じる人、人を支えるのが好きな人、人よりも自分自身を高めたい人、色々な価値観があると思う。どの立ち位置を選んだとしても役割があり、必ずその一つ一つに価値があると思う。

考えが深まる時、ふいに風が吹く。滝のしぶきを含んだ涼しい風、風向きが変われば湿った土砂からくる土の香りも運んでくる。どの風も心地良い。

自然の本質から学ぶ。筑陽学園の教育方針にある言葉だ。私はこれについて自分なりの考えを深める事が出来た。これからやるべき事が分かった気がする。そう、私は自分自身が幸せになるために、自分がどんな時に、何に對して喜びや幸せを感じるのかを見つけないければならない。その答えにたどりついた時のために準備もしなければならぬと思う。人生の選択肢を増やすための勉強や体験、ゆったりとした時間の中で自然を感じながら感性を磨くこと。